

令和7年度 事業報告書

(キャッチフレーズ)

す さ き 清 流

住み慣れた里で、笑顔と希望あり、清らかな心で、流れるときをあなたと共に

理念

- 一. 多様性を尊重
- 一. 利用者様に寄り添った支援・介護
- 一. 職員の能力を発揮できる環境
- 一. 安心、やすらぎ、笑顔あふれる場

事業報告

令和7年度理事会・評議員会・監査実施状況

1. 理事会の開催

回	開催年月日	理事数	出席者数	うち書面出席者数	監事出席者数	議 事 内 容
第1回	R7.6.10	6名	5名	0名	2名	1.令和6年度事業報告 2.令和6年度決算報告 監査報告 3.規則の廃止、改定、一部改正について 4.清流荘におけるショートステイの受け入れ休止について 5.役員賠償責任保険契約の内容の更新について 6.次期役員について 7.評議員選任・解任委員会の開催について 8.次期評議員選任・解任委員会の開催について 9.第1回評議委員会の開催について その他 事業報告等について
第2回	R7.6.25	6名	5名	0名	2名	1.理事長及び業務執行理事の互選について
第3回	R7.11.19	6名	5名	0名	2名	1.令和7年度補正予算 2.須崎福祉会 苦情解決要綱の施行について 3.第三者委員の選考について 4.運営規定の改定について 5.第2回評議委員会の開催 その他 報告事項等
第4回	R8.2.6	6名	5名	1名	2名	1.老人デイサービスセンターよこなみについて 2.第3回評議委員会の開催
第5回	R8.3.16	6名	5名	1名	2名	1.令和8年度事業計画 2.令和8年度当初予算 3.役員等の報酬及び費用弁償等支給に関する規程の改定 4.役員賠償責任保険契約の内容の更新について 5.職員賃金規程の改定 6.第4回評議委員会の開催 その他 事業報告

2. 評議員会の開催

回	開催年月日	評議員数	出席者数	うち書面出席者数	監事出席者数	議 事 内 容
第1回	R7.6.25	7名	7名	0名	1名	1.令和6年度事業報告 2.令和6年度決算報告 監査報告 3.次期役員について その他
第2回	R7.11.27	7名	7名	0名	0名	1.令和7年度補正予算 2.須崎福祉会苦情解決要綱の施行に伴う 第三者委員の設置について その他 事業報告等
第3回	R8.2.13	7名	6名	0名	0名	1.老人デイサービスセンターよこなみについて
第4回	R8.3.24	7名	6名	0名	0名	1.令和8年度事業計画 2.令和8年度当初予算 3.役員等の報酬及び費用弁償等支給に 関する規程の改定 その他 事業報告等

3. 監査の実施

年月日	開催場所	監査内容
R7.6.5	清流荘大会議室	令和6年度各会計決算他について 監事 森光益裕・細木尊英

法人運営

令和7年度は、介護職員における人材の確保がこれまで以上に難しい状況となり、当法人の運営にもさまざまな影響が生じた。現場においても、日々の業務の中で負担の増加を感じる場面があったものと思われる。

このような状況の中、当法人では、利用者の皆様に安心してサービスをご利用いただけるよう、サービスの質と安全を第一に考えながら、限られた人員でも安定した運営が続けられるよう事業や体制の見直しを進めてきた。その中で、清流荘のショートステイの休止、またデイサービスセンターよこなみの廃止という判断に至った。デイサービスセンターよこなみについては、利用者数の減少もあったが、今後も必要なサービスを継続していくための苦渋の決断であった。また、介護現場では、生産性向上に向けて業務整理や役割分担の見直しを進めているが、一方で、業務負担などの新たな課題も見えてきている。

運営では感染症に関しては、令和7年度においても、過去の取り組みを継続し、全事業所において新型コロナウイルス感染症をはじめとする各種感染症の予防および拡大防止に重点を置いた運営に努めた。

また、苦情解決のための要綱より第三者委員を任命し、苦情等があった場合には内部で処理するのではなく、外部にも適切に公表するための体制を設けた。

経営面では、世界情勢も変わらず原油価格高騰を起因とする異常な物価高騰だけでなく食料料費等の値上げも続き、運営においても大きな打撃を受けているが、稼働率の維持・向上および経費の適正化に努め、法人全体としての安定性の確保を図った。

今後は、人材確保および介護職員の定着に一層励むとともに、課題への対応、業務の標準化・効率化、組織としての最適化を進め、持続可能な法人運営を目指していく。地域のニーズや法人の状況を踏まえながら事業の見直しを進め、今後も法人としての役割をしっかりと果たしていきたい。

1. 地域に根付いた信頼される事業を目指し、より多くの方に必要とされ、満足いただけるサービス内容となるよう、利用者の情報を、内外部の事業所等と連携し共有することができ、最善のサービスの提供に努めた。
2. 職員一人一人が、利用者および家族の皆様に、目を向け、耳を傾け、常に日々の生活状態の変化に対応するという姿勢を持ち、しっかりとした根拠に基づく支援をすることで、信頼関係をより強固なものにできるよう組織全体で取り組みを行った。
3. 利用者のニーズを適切に把握し、利用者の支援に必要な情報・介護技術の向上を常に行い、その内容を事業者のみならず利用者・家族・関係機関としっかりと共有することにより、スムーズな支援・サービス提供ができるよう取り組みを行った。
4. 法人として「組織のガバナンス(統治・監視)の強化」「事業運営の透明性の向上」「地域における公益的な取り組みを実施する責務」に努め、利用者・家族はもとより地域の方にも認められ信頼される組織づくりに努めた。

5. 新型コロナウイルス感染症を含む様々な感染症予防対策や、地震、風水害等の災害対策に法人全体で取り組み、感染や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが提供できるよう業務継続に向けた計画等(BCP)の策定の研修、見直しに取り組んだ。

運営実績

1. サービス提供

○ケアプランについては、PDCA(Plan計画、Do実行、Check評価、Action改善)サイクルを実践し、サービスの適切な提供に努めた。

清流荘は、LIFE(厚労省の科学的介護情報システム)を用いたPDCAサイクル・ケアの向上に努めた。

2. 法令遵守

○法令・条例・通達などの周知と諸規則等、運営基準改正による業務マニュアルの見直しを行い、法令遵守に努めた。

3. 利用者尊厳

○身体拘束や高齢者虐待の防止に向けた委員会の設置や研修を行うとともに、第三者委員を任命し外部の視点も取り入れながら、利用者の尊厳を大切にしたケアに努めた。

4. 苦情解決と相談対応

○苦情への速やかな対応に関する研修に参加するとともに、第三者委員を任命し、より安心して相談できる体制づくりに努めた。

5. 職員処遇と健康管理

○介護職員等処遇改善加算の継続取得による職員の賃金等処遇改善実施を行い賃金等処遇改善に努めた。

○定期健診の実施、衛生管理、感染予防とワクチン接種(インフルエンザ等)を行い健康保持に努めた。

○利用者および職員の身体への負担軽減のためノーリフティングケアの実践するための研修参加、スライディングボード等の購入等を行った。

6. 職員の研修参加

○オンライン研修や集合研修等、状況に応じた研修への参加を行った。

○資格取得及び更新(介護福祉士等・介護支援専門員)に関する研修会への参加を行った。

7. 地域貢献活動

○上分地区社会福祉協議会との連携による配食サービス事業へ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする様々な感染症の心配があり参加できない時もあったが、可能な時は参加した。

○須崎市内の5社会福祉法人(須崎市社会福祉法人連絡会)の連携した公益的な

取り組みを行うため、前年度に引き続き「第4回フードドライブキャンペーン」を行い、生活に困窮している方に提供することができた。

8. 情報開示(事業の透明性)

○法令による事業計画書・財産目録・収支計算書・定款・現況報告書等の情報開示を行った。

令和7年度 特別養護老人ホーム清流荘 事業報告

運 営

清流荘においては、令和6年度に実施した経営改善に向けた善光会によるコンサルティングの取り組みを、令和7年度も継続して実施した。その結果、入所稼働率の安定化を図ることができ、経営面においても一定の改善と安定化を進めることができた。

一方で、ショートステイ事業を休止せざるを得なくなった原因である、介護職員の人材確保については、依然として厳しい状況が続いている。採用活動や職員定着に向けた取り組みを進めているものの、十分な人員確保には至っておらず、引き続き対応すべき課題になっている。

こうした状況を踏まえ、業務の効率化および職員の負担軽減を目的として、業務手順の見直し等の業務改善に取り組んだ。また、限られた人員の中でも質の高いサービスを提供できるよう、生産性向上の観点から業務の標準化や役割分担の明確化を進めている。

感染症においては、例年同様に予防を行う事に重点を置き運営に努めたが、令和8年2月8日～令和8年2月25日迄の18日間、新型コロナウイルス感染症が施設内で拡大。また、令和8年3月17日～令和8年3月27日の11日間はノロウイルス感染症が施設内でまん延となった。施設内における感染症の対応が運営のカギとなってくる為、職員には改めて感染症委員会を通じて周知した。また、面会も引き続き自由な面会では無く制限を設けた面会を継続しており利用者家族に協力を頂いている。

今後、人材確保および定着に向けた取り組みや、働きやすい職場環境への取り組み等を一層進めるとともに、職員一人ひとりが力を発揮できる体制づくりを目指す。あわせて、利用者の皆様に安心してご利用いただける施設運営が継続できるよう、サービスの質の向上と経営の安定化に向けて取り組む。

1. 利用者の処遇の向上

(1) ケアプラン

新型コロナウイルス感染予防により面会制限をしているため、ご家族には電話で、入所者の状況を出来るだけ詳しく説明し、意向の確認を行う。また、機能訓練においても、身体機能低下予防及び現状維持に努めた計画等もケアプランに反映し、入所者の処遇の向上に務めることができた。

介護支援専門員・機能訓練指導員・管理栄養士が連携し、LIFE(厚労省の科学的介護情報システム)を用いたPDCAサイクル・ケアの向上に努めた。

ICT機器(インカム・カメラ)の導入により転倒防止などに対する対策がより可能となった。また、眠りスキャンによる夜間帯の眠りの状態を把握する事ができ、夜間の睡眠につながる様に検討する事ができた。

(2) 健康管理・感染症対策

協力医療機関連携加算の取得を行い嘱託医である高陵病院にも協力を得、更に医療

期間との連携が密に出来る様になった。職員は日々の処遇の中で異常の早期発見に努めるとともに、体調の悪いときは医師に連絡し必要に応じ受診し、早期の対応に努めた。

感染症対策として、県発表の感染症報告(週報)で情報収集し日々感染防止に努め、施設内に感染症を持ち込まないことを目標に職員全員で取り組んだが、施設内でノロウイルスによる集団感染となる。発生後の対応としては医療機関との素早い密な連携に努める事ができた。

(3)施設での日常生活

日常生活に生きがいや潤いを与えるため、生活、余暇委員会を設置し取り組んだ。新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症予防対策により、不十分であるが行事や外出が可能な時は園庭に出たり棟ごとに行事を行う等少人数で、機能訓練を取り入れたレクリエーションや、庭での季節の移り変わりを感じることもできるよう、生活に出来るだけ変化をつけ心身の機能維持に努めた。

(4)栄養管理

管理栄養士による栄養マネジメントの強化を実施し、個別の栄養管理により利用者の身体機能の維持改善を図った。また、選択メニューやリクエスト献立を行うことにより、個々のニーズに添った食事提供を実施し食の楽しみの持続に努めた。

ノロウイルス感染症の集団感染時には、食事調整を行い感染拡大予防に努めた。

(5)口腔衛生

口腔衛生管理が義務化となり、協力歯科医としてまるとみ歯科と連携を取り、入所者の状態に応じた口腔ケアの取り組みなどを行っている。歯科医師や歯科衛生士による研修や指導が行われ、職員による毎食後の口腔衛生を実施。肺炎予防にもつながっていく。

入所者数(入所定員110名)

(平均入所者数には入院中は含まない)

令和7年度 利用実績

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
平均入所者数	95	96	98	101	100	101	101	101	103	101	99	98	平均 99.5
男性	18	18	22	23	22	21	22	22	23	21	21	21	平均 21.2
女性	77	78	75	77	78	80	79	80	80	80	78	77	平均 78.3
新規入所者	5	5	5	1	3	4	3	2	4	2	2	1	合計 37
平均要介護度	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	平均 4.1

令和6年度 利用実績

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
平均入所者数	95	92	95	91	90	94	97	99	101	97	99	99	平均 95.5
男性	21	20	21	18	18	18	18	19	20	19	20	20	平均 19.2
女性	74	73	74	73	72	76	79	79	81	78	79	80	平均 76.4
新規入所者	5	5	4	2	6	4	4	3	2	2	5	3	合計 45
平均要介護度	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	平均 4.0

ショートステイ利用者(定員12名 空床利用あり)

令和7年度 ショート利用実績

※令和7年5月15日から休止。

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平均利用人数	9.1	9.1											平均 9.1
利用延人数	218	127											345

令和6年度 ショート利用実績

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平均利用人数	9.4	8.5	8.2	8.5	8.8	8.4	7.7	8	6.3	7.2	9.1	5.4	平均 8.0
利用延人数	283	263	247	178	238	253	240	241	171	188	256	168	2,726

日常生活動作状況表

R8.3末の入所者数

104 名

区 分	食 事			座 位			立ち上がり			排 泄			着脱衣		
	自 立	一 部 介 助	全 部 介 助	自 立	一 部 介 助	全 部 介 助	自 立	一 部 介 助	全 部 介 助	自 立	一 部 介 助	全 部 介 助	自 立	一 部 介 助	全 部 介 助
実数(人)	3	81	20	13	57	34	3	58	43	0	46	58	0	77	27
割合(%)	2.9	77.9	19.2	12.5	54.8	32.7	2.9	55.8	41.3	0.0	44.2	55.8	0.0	74.0	26.0

区 分	入 浴			歩 行			ねがえり			車いす使用 102名		
	自 立	一 部 介 助	全 部 介 助	自 立	一 部 介 助	全 部 介 助	自 立	一 部 介 助	全 部 介 助	自 立	一 部 介 助	全 部 介 助
実数(人)	0	53	51	0	2	102	38	37	29	9	40	53
割合(%)	0.0	51.0	49.0	0.0	1.9	98.1	36.5	35.6	27.9	8.8	39.2	52.0

※車いす未使用者
2名

行事

年 月 日	内 容	利用人数
R7.9.17	敬老会	利用者全員
R7.12.25	クリスマス会	利用者全員
R8.2.3	節分(豆まき)	利用者全員
月1回	誕生日会	利用者全員
年8回	ホーム喫茶	利用者全員

2. 地域福祉交流

地域の方や各種団体、保育園、学校等との交流、学生やボランティア等の受け入れは新型コロナウイルス感染症などにより制限され、以前の様に思うような活動が出来なかったが感染状況が落ち着いている時には徐々に活動の枠を拡げている。

地域交流等

年 月 日	団 体 名	内 容
R7.5.17～R8.2.28 計11回	橋田佐代子さん	繕いもの物ボランティア
R7.6.13	津野町のパン屋(市川さん等)	余興(歌・踊り・ギターオカリナ演奏)
R7.9.8	上分公民館	敬老の日プレゼント(ヤクルト)
R7.9.11	上分小中学生体験学習(小3・中1)	簡単な介護体験(車いす移動等)
R7.12.24	上分清流クラブ	門松のプレゼント

3. 防災・感染症対策

- (1)地震・火災・風水害による避難訓練等の実施により、有事に際して万全を期すとともに、非常通報システムを職員へ周知徹底して、利用者の安全を確保することに努めた。また、南海トラフ地震の発生率が高くなる中、災害発生時に利用者や職員の安全を確保し、サービスを継続的に提供できるよう、災害時の事業継続計画(BCP)の見直しを行い、災害時の職員安否確認ソフトを使用し訓練を行った。
- (2)新型コロナウイルスをはじめとする様々な感染症による感染予防対策が必要な時は、感染症予防委員会をその都度開催し、感染防止のため施設全体で対応した。(感染症BCP 訓練として R7年8月27日に第1回、R8年2月17日に第2回を実施。感染症BCP 研修として R7年6月25日に第1回、R7年8月27日に第2回を開催)
クラスター発生時には、毎日感染状況を確認し、施設全員で感染拡大防止に努めた。

避難訓練

年 月 日	立 会 団 体 名	内 容
R7.5.28		地震・火災避難訓練(日中想定)災害BCP研修
R7.9.25		地震・火災避難訓練(日中想定)・災害BCP訓練※1
R7.11.17		風水害避難訓練(日中想定)・災害BCP訓練・研修
R8.1.27	須崎消防署※2	地震・火災避難訓練(日中想定)

※1前日(9/24)にコロナ感染者発生の為机上訓練となる。

※2須崎消防より連絡あり、立ち合い中止となる。

5. 職員の資質の向上

- 外部の研修は、新型コロナウイルス感染症が5類となり、研修も再開。オンライン研修や感染対策を講じた研修にも参加する事が出来る様になった。資格更新研修等をはじめ、必要な研修の受講を行った。またオンライン含む外部研修に参加した職員が中心となり内部研修を行い職員全員が、自ら資質の向上、技能の修得に努めた。
- 事故防止委員会は、安全管理対策担当者を置き毎月開催し、入所者の事故防止に施設内全体で取り組んだ。
- 認知症介護基礎研修の未受講の職員には、受講させ認知症の利用者の方の介護力向上に努めた。
- 介護職員の減少に伴い又、介護職員の生産性向上を狙い清流荘内の無線化工事を行う事で(補助金活用)ICT 機器(インカムや一部利用者の見守りカメラ(眠りスキャン))の導入を行った。同時に業務改善も行った。

令和7年度 老人デイサービス「清流の家・よこなみ・しろやま」事業報告

1. 運営

令和7年度は、法人全体において介護職員の減少が大きな課題となる中、3つのデイサービス運営についても厳しい状況が続いた。職員確保が難しい状況が続いており、限られた人員の中で法人全体のサービス提供体制を維持する必要があったことから、各事業所において運営体制の見直しや業務の効率化に取り組んだ。

デイサービス清流の家においては、地域からの利用ニーズが高まり、利用者数が増加したことで稼働率も安定し、事業運営については改善傾向が見られた。職員負担への配慮を行いながら、利用者に安心して利用していただけるサービス提供に努めることができた。

デイサービスしろやまについては、ここ数年利用者数の減少傾向が続いており、安定した事業運営に向けた利用率の向上が引き続いての課題となった。地域ニーズの変化や利用環境の変化なども影響していると考えられ、今後はサービス内容や運営方法について更なる検討を行い、利用者確保に努めていく必要がある。

デイサービスよこなみについては、利用者数の減少に加え、職員体制の維持が困難となったことから、法人全体の人員配置や将来的な事業継続性を総合的に検討した結果、令和7年度をもって事業を終了することとなった。長年にわたり地域の在宅介護を支えてきた事業所であり、利用者および家族、地域関係者には多大なる感謝を申し上げるとともに、利用者への影響を最小限に抑えるため、関係機関と連携しながら丁寧な移行支援に努めた。

法人全体として介護職員の確保が一層難しさを増す中、各事業所とも、業務整理や送迎の工夫を進め、生産性向上とサービスの質の維持の両立に努めた。しかしながら、現場では業務負担感の増加などの課題も見られており、引き続き改善と働きやすい職場環境づくりは必要である。

感染症対策については、新型コロナウイルス感染症をはじめとする各種感染症予防の取り組みを継続し、利用者および職員の安全確保を優先した運営を行った。

今後も、地域ニーズや法人の状況を踏まえながら事業体制の見直しを進めるとともに、人材確保と職員定着への取り組みを強化し、限られた人員の中でも安定したサービス提供が継続できるよう努めていく。

2. 利用者の処遇の向上

常に利用者や家族の立場にたった介護計画を策定して、個人差のある利用者の心理や機能の格差にも配慮したサービスの提供に努めた。

- (1)社会的に孤立しがちな利用者に対し、アクティビティサービス(ゲーム・いきいき百歳体操・音楽等)を通して、心身機能の低下防止、運動機能の維持向上に努めた。
- (2)食事を栄養補給だけでなく、楽しみのひとつとして捉え、交流を深める機会としての雰囲気づくりに努めることができた。
- (3)在宅での介護負担の軽減のため、健康チェック、心身状態に留意しつつ、安全に入浴していただけるよう、その入浴介助を行った。
- (4)家族と連絡を密にし、利用者、家族の意見を十分に考慮した個別のサービス計画を策定することができた。
- (5)月曜日から土曜日、祝祭日は開所日として運営するとともに、年末などの休日が連続する場合については、可能な限り開所してサービスを提供することができた。

3. 地域等との連携の強化

社会福祉関係の各種団体との連携し、高齢者の在宅及び地域社会での福祉の向上に努めた。また、保育園、小中学校生やボランティアグループなど地域の方々との交流は、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、感染対応を行い可能な限りの交流を少しずつ再開した。

4. 防災・感染症対策

消防設備の点検を励行するとともに、南海トラフ地震の発生率が、マグニチュード8から9クラスの地震が今後30年以内に発生する確率は80%程度とされ、いつ発生してもおかしくない状況と発表された。常に危機感をもって、避難・防災訓練を実施した。また、地震・津波・風水害等の訓練は実施したが、地域との連携した訓練ができなかった。

デイ清流の家は、須崎市の福祉避難所にも指定されており、上分地区防災連絡協議会と連携をとっているが、新型コロナウイルス感染症のため訓練等はい行われなかった。

感染症対策については新型コロナウイルス感染症をはじめとする様々な感染症予防に重点を置き運営に努め、未然に防げるものはしっかりと対応を行っていく事とした。

5. 職員の資質の向上

外部の研修は、オンライン研修や集合研修で感染対策を講じた研修にも参加する事が出来るようになった為、必要な研修は受講していく事とした。また、内部研修を行い自ら資質の向上、技能の修得に努めた。

令和7年度デイサービス清流の家 事業実績

区 分	5年度	6年度	7年度
事業営業日数	307 日	308 日	309 日
年間実利用人員	475 名	505 名	576 名
年間延べ利用人員	4,147 名	4,288 名	4,947 名
1日平均利用人員	13.5 名	13.9 名	16.0 名
介護保険事業収入 (年度間)	40,341,529 円	41,367,425 円	49,061,092 円

介 護 度	延べ利用人員		
	5年度	6年度	7年度
要 支 援 1	159 名	142 名	128 名
要 支 援 2	501 名	624 名	466 名
要 介 護 1	1,662 名	1,257 名	1,820 名
要 介 護 2	781 名	1,064 名	1,555 名
要 介 護 3	437 名	496 名	461 名
要 介 護 4	213 名	338 名	367 名
要 介 護 5	394 名	367 名	150 名
合 計	4,147 名	4,288 名	4,947 名
平均要介護度	1.8	1.9	1.8

月	行 事	運 営
4月	壁画づくり・桜花見	代表者会(各事業所代表者による会) 地域ケア会議・感染症予防委員会
5月	壁画づくり(こいのぼり)	代表者会・虫駆除 令和7年度第一回運営推進会議 入浴介助についての研修 感染症予防研修
6月	壁画づくり(あじさい)	代表者会 地震・火災避難訓練 プライバシーや個人情報に関する研修
7月	七夕飾り付け・壁画づくり(花火)	代表者会 BCP(感染症)訓練 リエイブルメント研修
8月	壁画づくり(風鈴)	代表者会 虐待防止研修
9月	敬老会(記念品贈呈)	代表者会 BCP(地震・火災避難)訓練 身体拘束に関する研修 虐待防止研修
10月	運動会	代表者会 BCP(自然災害・風水害)訓練・BCP自然災害研修
11月	手芸クラブ	代表者会 虐待の未然研修研修
12月	クリスマス会(プレゼント)	代表者会 令和7年度第二回運営推進会議
1月	壁画づくり(初日の出・正月)	代表者会 避難訓練(風水害) 身体拘束に関する研修 虐待防止研修 接遇マナー研修
2月	節分豆まき・壁画作り(鬼)	代表者会 身体拘束適正化委員会 虐待防止委員会 感染症 予防委員会 認知症研修
3月	桜花見	代表者会 避難訓練(地震・火災) 感染症研修

令和7年度デイサービスよこなみ 事業実績

区 分	5年度	6年度	7年度
事業営業日数	310 日	308 日	309 日
年間実利用人員	603 名	488 名	382 名
年間延べ利用人員	6,436 名	5,268 名	3,916 名
1日平均利用人員	20.8 名	17.1 名	12.7 名
介護保険事業収入 (年度間)	56,350,312 円	48,540,528 円	34,883,936 円

介 護 度	延べ利用人員		
	5年度	6年度	7年度
要 支 援 1	207 名	53 名	82 名
要 支 援 2	781 名	653 名	488 名
要 介 護 1	3,019 名	2,030 名	1,726 名
要 介 護 2	860 名	1,049 名	924 名
要 介 護 3	927 名	879 名	342 名
要 介 護 4	430 名	391 名	171 名
要 介 護 5	212 名	213 名	183 名
合 計	6,436 名	5,268 名	3,916 名
平均要介護度	1.5	1.7	1.6

月	行 事	運 営
4月	壁画作成	代表者会
5月	壁画作成	代表者会・虫駆除
6月	壁画作成	代表者会
7月	七夕飾り	代表者会・地域ケア会議・生産性向上委員会
8月	壁画作成	代表者会・避難訓練(風水害)・身体拘束・虐待防止研修・緊急時の対応について
9月	敬老会・壁画作成	代表者会・避難訓練(地震火災)・プライバシー保護研修
10月	壁画作成・運動会・干し柿作り	代表者会・BCP災害訓練・安全な送迎の為の取り組み研修
11月	壁画作成・おやつ作り	代表者会・地域ケア会議・BCP感染症訓練・感染症予防研修・入浴介助に関する研修
12月	クリスマス会・忘年会	代表者会・地震火災避難訓練・認知症ストレスケアについて
1月	壁画作成・おやつ作り	代表者会・事故防止研修・虐待に関する研修・倫理法令遵守研修
2月	節分(豆まき)・おやつ作り	代表者会・認知症研修
3月	壁画作成・おやつ作り	代表者会・地震・火災避難訓練

令和7年度デイサービスしろやま 事業実績

区 分	5年度	6年度	7年度
事業営業日数	310 日	308 日	309 日
年間実利用人員	615 名	587 名	539 名
年間延べ利用人員	6,134 名	5,385 名	5,008 名
1日平均利用人員	19.8 名	17.5 名	16.2 名
介護保険事業収入 (年度間)	50,780,065 円	45,556,223 円	42,840,012 円

介 護 度	延べ利用人員		
	5年度	6年度	7年度
要 支 援 1	200 名	188 名	114 名
要 支 援 2	1,344 名	1,204 名	1,341 名
要 介 護 1	2,322 名	1,768 名	1,402 名
要 介 護 2	701 名	833 名	884 名
要 介 護 3	542 名	901 名	910 名
要 介 護 4	757 名	456 名	272 名
要 介 護 5	268 名	35 名	85 名
合 計	6,134 名	5,385 名	5,008 名
平均要介護度	1.5	1.6	1.6

月	行 事	運 営
4月	花見 壁画作成	代表者会 生産性向上委員会 入浴介助研修
5月	壁画作成	代表者会 生産性向上委員会 虫駆除 プライバシー保護についての研修
6月	壁画作成	代表者会 生産性向上委員会 虐待防止研修 風水害避難訓練 非常災害時のBCP研修
7月	七夕まつり・壁画作成	代表者会 生産性向上委員会 介護予防研修 地域ケア会議
8月	壁画作成	代表者会 生産性向上委員会 身体拘束についての研修
9月	敬老会 壁画作成	代表者会 生産性向上委員会 苦情解決セミナー 地震津波避難訓練
10月	運動会 壁画作成	代表者会 生産性向上委員会 高齢者虐待防止研修
11月	壁画作成	代表者会 生産性向上委員会 地域ケア会議 事故防止研修
12月	忘年会 壁画作成 喫茶	代表者会 生産性向上委員会 認知症ストレスケア研修 感染症訓練(BCP)
1月	壁画作成 喫茶	代表者会 生産性向上委員会 火災避難訓練 非常時の対応研修
2月	壁画作成 喫茶	代表者会 生産性向上委員会 倫理研修 地震津波避難訓練
3月	壁画作成 喫茶	代表者会 生産性向上委員会 火災避難訓練

令和7年度「清流の家」居宅介護支援事業所 事業報告

令和7年度は、質の高い居宅介護支援をおこなうため、また、地域の状況を把握する為、積極的に連絡会や意見交換会などに参加し情報交換を密にした。また、清流荘のショートステイ休止に伴い、利用者の為の計画の再立案等の対応には迅速な協力があった。例年同様、須崎市内及び周辺の市町村での新型コロナウイルス感染症をはじめとする様々な感染症により、各サービス提供事業所がサービスを中止するなど、利用者の必要なサービス利用調整に、利用者・家族・各サービス提供事業所・医療・地域包括支援センターなど各機関と連携し取り組むことに努めた。現在は4名のケアマネージャーで運営を行っている。

- (1) 利用者が要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限り居宅において、有する能力に応じその自立した日常生活を営むことができるよう居宅サービス計画を作成することができた。
- (2) 利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき適切な保健医療サービスや福祉サービスが、総合的かつ効果的に提供できるよう努めた。
- (3) 居宅介護支援の提供にあたっては、利用者の意志及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、利用者に提供されるサービスが特定の種類又は特定の事業者に不当に偏ることのないよう複数のサービス事業所の説明を行い公正中立に行った。
- (4) 感染症により、入所施設や通所事業所等でクラスターが発生した場合でも、必要なサービスが継続できるよう各サービス事業所との情報連携に努め、サービス提供に努めた。

1. 運 営

介護支援専門員は、利用者及び家族の希望や利用者について把握した課題に基づき、サービスの目標、達成時期、サービスを提供する上での問題点など総合的かつ効果的な居宅介護サービスを提供することができるよう努めた。

居宅サービス計画については、法令を遵守し適切に対応した。

- (1) 居宅サービス計画の作成、説明及び同意
- (2) 居宅サービス計画の変更、説明及び同意
- (3) 継続的かつ総合的な居宅サービス等の利用実施
- (4) 居宅サービス計画の実施状況等の把握及び評価と課題分析の実施
- (5) モニタリングの実施
- (6) サービス担当者会議等による専門的意見の聴取の実施
- (7) 介護保険施設への紹介及びその他の便宜の提供と介護保険施設との連携
- (8) 医療サービス等における主治の医師との情報連携

清流の家居宅介護支援事業所 要介護別請求実績表

区 分	5年度	6年度	7年度
	件 数	件 数	件 数
要介護 1	848	766	734
要介護 2	430	530	523
要介護 3	295	270	277
要介護 4	199	158	116
要介護 5	129	119	68
合 計	1,901	1,843	1,718
1人あたり1ヶ月平均件数	31.7	34.1	35.8
居宅介護支援員	5 人	4.5 人	4 人